

環境学習フォーラム報告

環境学習施設研究部会では、第7回目の環境学習フォーラムを、「大阪・関西万博で広がる施設連携」をテーマに、9月11日(月)15:15～16:45(実際には機材トラブルにより17:00まで延長)、第5会場(第10号館4F)で開催した。会場への参加者38名、オンラインでの参加者7名の合計45名が参加された。漸くコロナ禍前の参加者数にもどった感があったが、機材トラブルにより予定時間が延びてしまい、参加者には申し訳ない状況であった。ここに改めて、お詫び申し上げる。

記録映像は、次のアドレスで公開している。
基調講演

<https://www.facebook.com/facilities.env.edu.888/videos/1404735576739486/>

共創チャレンジ「ゆめほたる SDGs パビリオン」
<https://www.facebook.com/facilities.env.edu.888/videos/995535781683043/>

共創チャレンジ「Re 食器 SDGs パビリオン」
<https://www.facebook.com/facilities.env.edu.888/videos/2027844347567005/>

共創チャレンジ「Re 紙容器 SDGs パビリオン」
<https://www.facebook.com/facilities.env.edu.888/videos/280409011447977/>

最初に、2025年日本国際博覧会協会の福原氏から基調講演として、大阪・関西万博の概要及び持続可能な万博開催にむけた取り組み等をご紹介いただいた。続いて共創パートナー「全国まるごと SDGs パビリオン」に賛同し活動されている3施設から、各共創チャレンジのご紹介をいただいた。

1. 開催挨拶

司会 花嶋温子代表(大阪産業大学)

2. 基調講演

「持続可能な大阪・関西万博開催にむけた取組について」

(公社)2025日本国際博覧会協会
福原 利樹 氏



図1 フォーラム会場(花嶋代表の開催挨拶)



図2 基調講演(福原氏)

3. 共創チャレンジの紹介

「ゆめほたるかえっこ SDGs パビリオン」

「ゆめほたる環境まんが SDGs パビリオン」

国崎クリーンセンター啓発施設

所長 関野 正 氏

「Re 食器 SDGs パビリオン」

NPO 法人豊中・伊丹環境政策フォーラム

事務局長 小篠 和之 氏

「Re 紙容器 SDGs パビリオン」

NPO 法人 エコライフはままつ

理事 高根 美保 氏



図3 関野氏のSDGsパビリオン紹介

最後に、本研究部会事務局から簡単な活動紹介をした。

鈴木榮一(環境学習施設研究部会 事務局)

環境学習企画展示、分解ワークショップ報告

環境学習施設研究部会は、第7回目となる企画展示を、「大阪・関西万博で広がる施設連携」をテーマに、9月11日(月)～12日(木)、大阪工業大学3号館(1Fロビー)で開催した。入場者数は、11日229名、12日117名のべ346名であった。



図4 共創チャレンジ紹介コーナー



図5 全国施設紹介と映像コーナー



図1 会場全景



図2 Re 食器配布コーナーと連載記事の紹介



図3 大阪・関西万博、Re 食器コーナー

【出展協力】 公益社団法人2025年日本国際博覧会協会、国崎クリーンセンター啓発施設、NPO法人豊中・伊丹環境政策フォーラム、NPO法人エコライフはままつ、eco-T「エコット」豊田市環境学習施設、川崎重工業(株)、荏原環境プラント(株)

本展示にご協力いただいたみなさまをはじめ、展示会場の設営や環境整備にご尽力いただいた実行委員会のみなさまに、心より感謝いたします。

鈴木榮一(環境学習施設研究部会 事務局)

分解ワークショップ報告

本年のワークショップ開催は、本研究部会の初年度企画展示にて、リサイクルアートのワークショップを実施して以来の開催である。

会場は、大阪工業大学 10 号館 5F 共同ゼミ室にて、9 月 11 日と 12 日の 2 日間、午前 1 回、午後 2 回 (のべ 6 回) 実施した。体験者 21 名、見学者 23 名、取材 2 件であった。



図 1 分解ワークショップ会場と分解アイテムの一部 (廃棄電化製品)



図 2 分解ワークショップの事前説明、ワークショップの進め方や分別について
{ワークショップ概要}

- 1 分解ワークショップの説明 (約 10 分)
- 2 分解ワークショップ実施 (約 60 分)
- 3 分解後の分別、整理整頓・清掃 (約 10 分)

最初は、「不器用だから」と工具を持つことを躊躇していた参加者が、分解した部品を綺麗に並べ、「無茶苦茶、楽しい!」と喜ばれたり、施設関係者から、新しいプログラムの方法を学んだとお礼を言われたり、ワークショップ参加への感想は概ね良好であった。



図 2 分解ワークショップの七つ道具

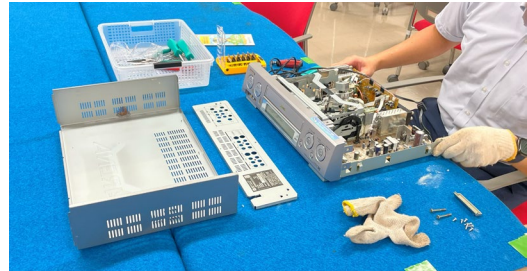


図 3 分解作業 (ビデオデッキの解体)



図 4 分解後の分別仕分け箱 (基板類、金属系、プラ・紙類)

2 日間に分解分別した資源重量は次の通り。

- ・プラスチック類資源 : 7.24kg
- ・鉄系資源 : 25.84kg
- ・基板類 : 6.38kg (合計 39.46kg)

実施にあたっては、国崎クリーンセンター啓発施設 (ゆめほたる) 様から、ワークショップ指導や道具類のご提供をいただき、分解・分別した部材は、大栄環境株式会社様によりお引き取りいただいた。両者からの多大なるご協力に、深く感謝いたします。

鈴木榮一 (環境学習施設研究部会 事務局)